

うしく里山の会 広報誌

## さとやま

(No. 63 2008年5月号)

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1  
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u\_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>

## 「第四回通常総会のお知らせ」

〈坂 弘毅〉

平成十五年四月、牛久自然観察の森のレクチャー室で「うしく里山の会」という小さな市民団体が産声を上げました。牛久の里山を愛してやまない有志の集まりです。夢や希望に溢れながらも、当地での活動実績に乏しい団体が如何にかが当時の大きな課題でありまし

た。

そんな私たちの最初の主催行事は「こども星見隊」。

同じ志のもとに集った有志が、きらめく星のもとで多くの市民の皆さんに出会えた感動は忘れる事ができません。以降、様々な活動を行うなかで、時には周囲から厳しいご指導をいただくこともありました。活動拠点となった市内各地区の皆様、行政関係機関の協力もあり、厳しく険しい道のりを一つ一つ乗り越え実績を積み、平成十六年十月には特定非営利活動法人の認証取得に至りました。その翌月には、第一回里山セミナー「里山を楽しみ、里山を知る」を開催する事も出来ました。

平成二十年四月をもって、当会は市民団体として生まれながら丸五年、法人格取得から丸三年半

が経過したことになります。現在、うしく里山の会は、雑木林応援隊、「自然観察出前講座」、「そばプロジェクト」、「じゃがいもプロジェクト」、「里山自然観察隊」などの自主事業をはじめ、牛久市との協働事業である特別事業「巨木・古木・希少木リサーチ事業」、また「牛久自然観察の森」の指定管理者として、更には「牛久観光アヤマ園」、独立行政法人森林総合研究所からの「森の展示ルーム」受託事業など、一つ一つ実績を重ね、会のミッションに忠実に結果を残してきています。そして本年も、全会員が一堂に会する重要な第四回通常総会がやってきます。夢中にながむしやらに走ってきたこの数年間を振りかえり反省する一つの節目としても、新たな一年の目標を確認する意味においても、会員の皆さん一人一人が役割を持つ大切な総会です。どうぞご出席ください。また、総会終了後には、会誕生五周年を記念したセミナーも開催いたします。こちらは会員外の方もご参加いただけますので、どうぞご周知下さい。

## 第四回通常総会

日程 平成二〇〇八年五月十八日(日曜日)  
場所 牛久自然観察の森レクチャー室  
時間 通常総会 午前一〇時～十二時  
記念セミナー 午後一時～三時  
テーマ 森の聞き取りプロジェクト報告

「結束と江戸の接点を検証する」

講師 坂 弘毅





## アヤメ事業報告

坂 弘毅

### アヤメ園の受託事業完了報告

平成十九年度のアヤメ園管理受託事業は、三月三十一日で完了しました。平成十九年度という年は、受託から三年目でアヤメ園の再生完了という節目の年となりました。結果としては、この課題を見事クリアしたことが特筆すべき事項でありましたが、今月は年間の事業完了報告としてご報告いたします。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

平成十九年度の活動を数値で表しますと、活動日数八十八日、作業に関わった

延べ人員八九二人、

活動時間三四九三

時間という膨大な

数値になります。

この大きな数字が

荒廃したアヤメ園

の再生を成し遂げ

た実績となります。

これは公益性を重

んじたNPO法人

だから出来た実績

で、利益優先の一

般企業ではおそ

らく無理な数字では

ないでしょうか。

更に追記する事項

として、アヤメメンバーの自然に対する思いやりや、何とかしなければと言う一人ひとりの熱い思いが実績を作ってきたものと考えます。雨が降っても猛暑でも黙々と作業する里山の会の姿勢に多くの来園者から熱い視線が注がれました。当然、数多くの激励の言葉をいただく、よし、もっと良くしていこうというやる気が湧いてきたものです。

受託から丸三年、ハナシヨウブの管理サイクルを一巡させ、その間、ハナシヨウブ、カキツバタ、アヤメのそれぞれの性質を完全に把握して再生という大きな課題を達成しました。そして、その know-how は次のステップへ引き継がれます。

二巡目のテーマとしては、「ゼロからのスタートでアヤメ園の現況を維持」。即ち全株の株分け（8月）を完了させ、根の活着から開花全盛までの三年間を管理することです。これは一巡目よりも大きなテーマとなります。一巡目は荒廃したアヤメ園でしたから、わずかでも咲けば「良くやっただ」という評価になります。しかし、二巡目は違います。最初から一〇〇%の開花でなくてはならないからです。毎年一〇〇%の開花が達成できてはじめて里山の会の評価となります。

牛久観光アヤメ園の管理受託を里山の会で議論したのは四年前でした。里山の会が観光資源の再生に何故手を出すのか、里山の会は環境保全が会の目的であるはず、と言う一部の意見があったことを今でも強く

脳裏に焼き付いています。その時、市内でもまれに見る里地・里山としての自然と歴史が残された重要な場所であること、アヤメ園のある場所は「浮田」のあった場所、牛久の自然環境を再生する重要なエリアであることなどを説明し、アヤメ園の管理受託を決めた経緯があります。当初の暗中模索で進めた管理作業にはかなり無謀な賭けであったと思います。あれから三年が経過し、所期の目的を達成し、新たな取り組みに夢を描いています。

現在のアヤメ園の中には小さな「牛久里の植物園」を開設し、牛久沼の水辺にあったはずの希少植物を観察できるよう整備を進めてきました。その結果、アヤメ園の圃場の中から絶滅危惧種の野草の開花から自然環境の再生が進んでいることが明確となりました。

次年度の課題は前述のように、「ゼロからのスタートでアヤメ園の現況を維持」を三年間のビジョンとして推進し、初年度は

（株分けと根の活着）。二年目は「春の小川づくり」。三年目は「アヤメ園から水生植物園化へ」をアヤメ園管理受託事業の課題としたいと思います。







巨木リサーチ事業報告  
平塚 芳雄

平成十九年度展示・報告会を終えて

去る三月二十日、二十二日、二十三日の三日間に渡り、平成十九年度巨木リサーチ事業展示・報告会を牛久自然観察の森で開催しました。うしく里山の会内部向けには既に一月二十六日に一年間の活動の締めくくりとしての内部報告会を行っていましたが、この事業が牛久市との協働事業であることを踏まえ一般公開で開催しました。

今回の展示・報告会を開催するに当たっては事前準備のため、一月二十六日の内部報告会の後、世話人を構成メンバーとする準備プロジェクトを組織し推進しました。展示・報告会の内容は事業（寺社境内二十五カ所の樹木六十八本の調査）の活動状況及び成果の資料・写真展示とパワーポイントのスライドによる報告で行うこととしました。渡辺事業代表の企画・指導のもと、樹高・幹周・植生・街路樹・写真のグループ毎に展示資料・スライド画面づくりを進め、合同での準備作業の他、パワーポイントの試写会、リハーサルもそれぞれ数回実施しました。

展示報告会場はパネル7枚を「コ」の字形に並べ、展示資料の掲示場所を確保し、パネルに囲まれた中にスライド映写の機器を設置、視聴者席を設け、スライドによる説明が出来るようにしました。



「報告を聞く来場者」 渡辺 08.3.2

展示資料の内容はスライド画面とほぼ同じで、市の挨拶・緑化の意義等の文章及び巨木リサーチの意義・目的等の説明文と共に、樹高や幹周の測定方法、測定結果、調査木の周囲の植生や街路樹の調査結果を文章、イラスト、グラフ、街路地図、写真の形で掲示しました。写真グループはパネル3枚の表裏の両面を使って今回調査した樹木の内二十八種の写真を展示しました。開場は朝九時（初日は十時）から午後三時三十分迄でしたが、スライド画面を使った説明会は午前十時からと午後一時からの二回、所要時間約一時間で実施しました。来場者数は初日は雨で九人と少ない数でしたが、最終日は天候にも恵まれ積極的な呼び込みも奏効し、六十六人と多くなり、三日間合計で百十三人となりました。

スライド説明の後の質疑では幹周の測定法や古木の定義への疑問等々の意見・質問が出ました。大きなトラブルもなく来場者数もまずまずで、成功裏に終了できました。ただ、展示資料及びスライド画面作成の負

担が渡辺代表に集中してしまったことや資料の内容チェック等が不十分であった点が反省されます。

一方、報告発表や会場設営・撤去等の作業においては総務担当者の手配、観察の森スタッフの助力もあり、メンバーのチームワークが遺憾なく発揮されたと思います。なおスライド説明を特定の人が行うのではなく、各グループとも都合のつくメンバー全員が交代して行ったことはメンバーの参加意識を高める上に大きな効果があったと思います。

今回、樹高グループの一員として展示・報告会に携りましたが、この展示・報告会を通じて巨木リサーチ事業の目的（市民の巨木や環境に対する理解促進を図る。）が達成できたかを考えた時、展示内容も市民への伝達方法もまだまだの感があります。この事業も残すところ後一年、ただ木の高



「展示資料を見る来場者」 渡辺 08.3.20

さを測っているだけでなく、里山の会の理念を意識しながら活動に臨まなければと改めて感じています。



牛久自然観察の森報告

齊藤 孝

平成十九年度入園者報告

指定管理者2年目となった平成十九年度の総入園者数は、前年比106%増の5万374人となり、平成二年(1990年)の開園以来十八年目にして初の5万人台を記録しました。(参考:平成17年度は2万8450人、平成十八年度は4万7430人)

一方、ネイチャーセンターと第一駐車場の年間使用電力総量は、平成十八年度(指定管理者1年目)の14万3580キロワット時から、13万5000キロワット時へと8580キロワット時の削減を行う事が出来ました。バツタ原で39℃を記録し酷暑であった夏季、同じくマイナス9℃を記録した冬季と、冷暖房の需要が多かった中での電力量削減は、一般来園者はもちろんのこと、定期活動を行っているボランティアの皆さんの理解と協力なしでは達成出来なかつたように思います。

さて、指定管理者3年目を迎える平成二十年度は、来園者の方々から改善要望が多数出されていた課題に積極的に取り組みます。

四月から五月にかけては、大雨で雨道が出来てしまい歩きづらくなつた園路の補修工事、利用者数の多い第一駐車場トイレの自動水栓化工事を実施する予定です。また、こちらにも要望が多数寄せられていたネ

イチャーセンターの土足入館につきまして、日曜や祝日、連休等に試験的に導入を行い、ワックスの落ち方など床面の状態を観察記録して参りますので、ご意見がありましたらレンジャーまでお寄せ下さい。どうぞ宜しくお願いします。



結束町みどりの保全区エコアップ作戦活動報告

齊藤 孝

結束町みどりの保全区エコアップ作戦参加者募集のお知らせ

五月は総会の日程と重なるためエコアップ作戦は1回のみの実施となります。会員の力を結集して元気な森づくりを行います。しよう!

五月十七日(土)午後1時~3時30分

集合場所・時間↓いずれもネイチャーセンター1階倉庫前・予約不要(雨天中止)

持ち物↓長靴、軍手、タオル、帽子、飲み物(長袖、長ズボン)

※杉林に隣接する雑木林での作業となりますので、マスクやゴーグルが必要な方は持参して下さい。

※刈払い機やチェーンソーの使用は資格所有者に限りません。

問い合わせ先) 会事務局

(029-874-6600担当:齊藤)



じゃがいもプロジェクト活動報告

本多 昭子

今期もスタートしました。市の公募で八家族、二十三人の方から連絡をいただきました。三月十五日に仕事始め。会員五人の作業。畑の土起こし。じゃがいも用地230㎡(収穫後には蕎麦畑に変身)里芋などの用地132㎡耕耘機に、草の根がからみついてなかなか力の必要な事でした。

三月二十九日晴れ。(内子ども7人) 助人人会員等の12人で計25人で活動。種芋を植えました。種類は男爵・メイクイン・キタアカリ・アンデスレッドの4種。九時に全員でご挨拶。まずは、じゃがいもの種類による特徴の説明を受ける。今日の収穫は、外見でその種類を見分けることが出来るようになった。かな。伸びている種芋の目を取って、切り分け、灰をつける。一畝分当たりの44切れをバケツに入れて待機。『ぼくアレや



りたい!』と主体的に申告をしてくれる姿は、期待の星に出会ったような喜びでした。畝作りの大仕事に挑戦しているお父さんには、三歳の坊やが着きつきりで指南しているの

で、お父さんは一



息もつくこともできず超ガンバツタ！  
畝の完成も近いので、いよいよ種芋を土に  
いれて、栄養分肥料を種芋の間に置いて、  
両足を使って土をかけた。1.5畝完成！時  
間に遅れたご家族も何気無く仲間に入っ  
ている。

ちよつと疲れた時でしたが、その所を  
もうヒトガンバリで、里芋の3畝も完成。  
種類別の標識も立ちました。

肥料（とんぷん）の中からカブト虫の幼  
虫を発見したり、淡紫の小さな蝶や、とっ  
ても綺麗な彩りのトカゲに出合ったり、「カ  
ムムシ」という名前を教わったり、植物だ  
けではない世界とのご対面もありました。

十時三十分、本日の予定は無事に終了。少  
し残った種芋は、家で試しに育ててもらっ  
ように、お持ち帰りしてもらいました。自  
家で育てる楽しみは格別な味のものになる  
ことでしょう。

前年の収穫祭に参加され、その感触から  
今年は、育てるときからのご希望で参加さ  
れた数組の御家族もありました。次回は四



月十九日です。三週  
間後では発芽には少  
し早いようですが、  
どのような変化が  
待っているのか楽し  
みです。  
準備万端いっぱい  
協力してくださいま  
した会員諸氏に感謝  
しています。



里山自然観察隊活動報告

田澤 七郎

第一回植物ガイド

「各種のスミレの花を見る」を開催

四月十二日（土）の「植物ガイド」参加  
者は里山の会員十一名と市の広報などに  
よる一般参加者12名の総勢23名。観察  
ルートは刈谷町、城中町のカツパの碑と稲  
荷神社近辺、そして新地町の三ヶ所でした。

前日の雨も上がり絶好の里山日和。午前  
九時過ぎに渡辺泰さんの先導で第一の予定  
地の刈谷に向かった。途中、刈谷町内にお  
住まいの渡辺さん宅の庭に立ち寄り、ここ  
で、普通は森で見られぬ二オイタチ  
ツボスミレなどを見せて頂く。刈谷四、五  
丁目では街路の端の敷石の合わせ目に点々  
と列をなして生えているスミレ（主として  
アツバスミレ）を観察した。渡辺さんの話  
によれば、これはもともと蟻がミツのつ  
いたスミレの種子を運ぶ途中に落としてい  
った結果だそう。つまり、アリンコの道  
はスミレの道になった訳です。さながら、  
フアーブルの昆虫記を読むような面白さで  
した。ここには、タチツボスミレ、コスミレ、  
アツバスミレが観察され、また次の観察地、  
城中のカツパの碑及び稲荷神社近辺の街路  
の方はタチツボスミレ、マルバスミレ、コ  
スミレが観察されました。これらの二ヶ所  
は全般的にみてタチツボスミレが一番多  
かったようです。最後の観察地、新地町へ  
は三日月橋近くのアヤマ園駐車場まで車で

行き、その先は徒歩。橋を渡り右折をせず  
直進。春霞のかかった牛久沼を左手に見な  
がら簡易舗装されただらだら坂を登る。人  
の登り下りは楽だが道端の植物にとつては  
どうかかなと思いつながら歩く。この坂道は登  
りつめたところで右折をするが、曲がり角  
にスミレならぬハナニラの群落があり、今  
年も薄紫のきれいな花を咲かせていた。そ  
のまま岡の上に広がる畑中の道を通り雑木  
林を抜けて東林寺の裏手に出ると、そこは  
アオイスミレ、二オイタチツボスミレ、  
マルバスミレが観察された。帰路はウグイ  
スなどの小鳥の声を聞きながら岡を回り、  
東林寺の下に出て三日月橋に戻った。

今回、一般参加者の間から牛久にこんな  
良い所が有るとは思わなかつたとの声が聞  
かれた。いつまでもこの環境を保ちたいも  
のです。

尚、次回の活動は里山の会会員主体の「植  
物観察会」（林地の植物）を左記にて予定。  
五月十日（土）、観察の森駐車場九時集合、



十二時三十分解散。  
観察場所は観察の森  
（コジユケイの林）  
と東下根の雑木林  
問合せ先  
029・873・  
6426 平塚



南部の自然を守る会活動報告  
若林 和浩

南部の自然を守る会パンフレット作成

活動二年目を迎えた南部の自然を守る会で、パンフレットを作成いたしました。里山の会パンフレットに引き続き今回も私が構成からデザインまでやらさせて頂いたのですが、その際にこれだけは絶対にしてはいけないと思うことがひとつありました。それは、パンフレットが南部地域の「観光案内パンフレット」にしてはいけないということなのです。

それはなぜか。話は第2回代表者会議にさかのぼりますが、会議に参加する上で里山の会の出席者に「里山の会からは具体的な提案を一切せず、まずは地域のみなさんの話を徹底して聞きましょう。」とお願いしました。南部地域には貴重な里山の自然が色濃くのこり、美しい里山を保全し、未来に引き継ぐという会の目的からすれば、環境保全や利用の提案をしたところですが、南部地域はまず第一に地域の方々の生産する場であり、先祖代々生活してきた土地です。その南部地域の方々に対して意見をすることは、人の家に土足で踏み込むようなものだと思います。そして、現地調査やさらなる会議で話を進めていくうちに、少しづつですが、みなさんの不安や悩みを聞くことができました。その中で特に印象に残ったのは、「農家を信用して欲しい」「静かに暮らしたい」という言葉で

す。この言葉の背景には農作業を行う地域の方々に対し、心無いひとからの数々の非難や、不法投棄など外部から持ち込まれた問題があることが伺えます。そして、こうも言っておられました。「健全な農業生産が出来ることが第一」と。

ボランティア活動や環境保全活動で地域にかかわる際に大切なのは、地域にどのような問題があり、何を望んでいるのかを分かち合い、その上で、地域にかかわる利害関係者が将来像を共有し、それに向けて行動することだと思えます。

私はさとやまがつきゅうを通じ、多くの南部地区の自然とふれあいました。その中でも伝えたい、みんなに教えたい素敵なところをたくさん知っています。しかし、それを伝えることは、現在の南部地区のみなさんの求めていることではありません。だからこそ、パンフレットは観光案内ではなく、南部地域の簡単な紹介にとどめ、南部の自然を守る会の概要と実際に活動する際に使いやすいように見開きで地図という形にしました。

このパンフレットをきっかけに、この南部地域に思いを寄せるみなさんとあれやこれやと将来の話を語り合えると思うと、とてもわくわくします。

次回は七月の活動を予定しています。

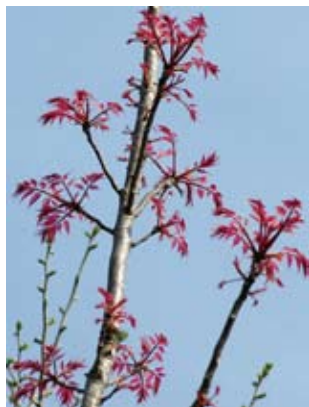


今月の古木・希少木

No.13 チャンチン

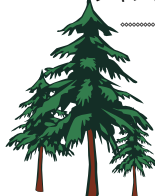
高さ30mに達するセンダン科の落葉高木です。チャンチンの名は中国名の「香椿」(シャンシュン)の読みがなまったことに由来します。強い香のある赤く美しい新芽が観賞用に愛好され、またタラノメのように摘んで食用にされています。中国原産で、わが国への渡来時期は、

江戸時代初期に来日した明の高僧隠元(インゲン)が京都府宇治市の黄蘗山(オウバクサン)万福寺に植えたのが最初とされています。万福寺では普茶料理(万福寺に伝わる精進料理)に用いられてきたそうです。わが国では寺院や古い屋敷に植えられています。牛久市では得月院の境内のものが唯一の希少木です。直径13cmほどの細い木で、イチヨウの木の陰に立っていかわいそうな感じがします。貝原益軒は『大和本草』のなかで、「此木近年木幡ノ萬福寺二中華自り来ル寺僧葉ヲ以テ之ヲ羹(カ)ンと読む餅菓子)ノ上二加ヘテ香氣ヲ助ク近年八伝ヘ植ヘテ処々ニ多シ」と述べてい



チャンチンの赤い若芽 07.4.10

ます。  
(渡辺 泰)





## 一コラム一 村の生活

一 鍬松（いちくわまつ）  
〈坂 弘毅〉

牛久周辺地域には正月三日に行われる「イチクワ」という予祝儀礼があります。〈作はじめ〉、〈鍬おこし〉、〈打ちはじめ〉

などという地方もあり、この行事の前には、農具に触れてもいけないし、田畑に入ってもいけないとされてきました。この儀式は、その家の主人によって行われます。松の枝を三本用意し、それに直径三〇〜四〇センチメートルの輪にした注連縄（しめなわ）にカキダレを付けたものをそれぞれの松の枝に付けます。そして、田畑の両方で土を三回、クワでさくつた後、先の三本の松と注連縄を置き、米をまきます。家に帰ってくると土間に箕（み）を置き、ろうそくを立て、そこに外でまいてきた米の残りを入れた一升枧と外で使ってきたクワを置きます。後日、その米でご飯を炊き、神仏に供えます。この儀式に使った松がその場所に根付き、大きな松になったのを「一鍬松」と呼ばれてきました。

この松の存在を知ったのは、昨年暮れでした。ある農家におじゃまして昔のしきたりについて話を伺っているとき、「イチクワ」の儀式が話題に上りました。そして、「儀式につかっていた松が根づき大きくなって畑の縁などに結構あったんだよ」、「でも、今は見かけなくなっちゃったねえ」。

この松が何処かにあるはずだと、搜索を

始めて三ヶ月、やっと見つけました。ここは牛久市の隣町、龍ヶ崎市の県道沿いです。地元の長老によると、「この付近は広大な畑が続く長閑な場所だったが県道ができてから農地転用で宅地化が進むと、状況は変わってしまった」「それは風景ばかりではないんだ、古くから伝わる農村特有の行事も次々に途絶え、現在ではほんの一部の農家で行われているに過ぎない」「一鍬松も次々に枯死し、現在は三代目のものが一本あるだけだよ」と話してくれました。県道に面して住宅街に囲まれた荒地（元は畑）の一角に形の整った松が一本、しっかりと立っていました。まだ古木とは言い難い松でしたが、伝統を重んじる地元の長老の心がこもった民俗遺産のような気がしました。しかし、世代の交代で、伝統や風習は次々と風化していくことに、強く危機感を

感じます。

\*カキダレ：注連縄や玉串、竹などに付ける和紙でできた飾りのようなもの。

\*予祝儀礼：農産物などの豊穰を祈って、あらかじめ模擬する行事（儀礼）。鍬初（くわぞめ）・庭田



わぞめ）・庭田

植の類。小正月に行うものが多い。  
（牛久市広報誌記事から一部引用）

### 運営委員会よりお知らせ

・第四回通常総会の日時が決まりました。

五月十八日（日）

総会 午前一〇時〜十二時

記念セミナー 午後一時〜三時

牛久自然観察の森ネイチャーセンター

近日中に総会議案書をお送りします。

・プロジェクト活動に際してのお願い

うしく里山の会のプロジェクト活動中は会員証の掲示をお願いいたします。会員証が破損した場合は再発行が出来ます。ネイチャーセンターまでご連絡ください。（一枚五百円）

### 広報委員会よりお知らせ

■次号6月号の印刷発行は五月二十八日（水）です。

午後一時からネイチャーセンターで行います。お手伝いいただける方は一時までにお越しください。よろしくお願いいたします。

## 5月の里山カレンダー

※活動美は都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

| 日  | 月   | 火  | 水                               | 木                                    | 金  | 土  |
|--|---|--|---------------------------------|--------------------------------------|----|--|
|  |   |  |                                 | 1<br>○アヤメ園(受)<br>8:00アヤメ園P           | 2  | 3<br>(憲法記念日)<br>○雑木林応援隊<br>9:00炭小屋             |
| 4<br>(みどりの日)<br>○巨木リサーチ(受)<br>8:30市役所玄関<br>○雑木林応援隊<br>9:00炭小屋                              | 5<br>(こどもの日)<br>○アヤメ園(受)<br>8:00アヤメ園P<br>○雑木林応援隊<br>9:00炭小屋 | 6<br>(振替休日)<br>○雑木林応援隊(畑)<br>9:30畑<br>○雑木林応援隊<br>9:00ムジナ | 7<br>(休園日)                      | 8<br>○アヤメ園(受)<br>8:00アヤメ園P           | 9  | 10<br>○里山自然観察隊<br>9:00森P<br><br>(会報等原稿×切)      |
| 11<br>○雑木林応援隊<br>9:00ムジナ   | 12<br>(休園日)<br>○アヤメ園(受)<br>8:00アヤメ園P                        | 13<br>○雑木林応援隊(畑)<br>9:30畑                                | 14                              | 15<br>○アヤメ園(受)<br>8:00アヤメ園P          | 16 | 17<br>○じゃがいも<br>9:00梅林畑<br>○エコアップ作戦<br>13:00NC |
| 18<br>○運営委員会8:30 NC<br>○第4回通常総会<br>10:00NC<br>○森の聞き取りP<br>報告会 13:00NC<br>○臨時理事会<br>(総会終了後) | 19<br>(休園日)<br>○アヤメ園(受)<br>8:00アヤメ園P                        | 20<br>○雑木林応援隊(畑)<br>9:30畑                                | 21                              | 22<br>○アヤメ園(受)<br>8:00アヤメ園P          | 23 | 24<br>○巨木リサーチ(受)<br>8:30市役所玄関                  |
| 25<br>○雑木林応援隊<br>9:00炭小屋   | 26<br>(休園日)<br>○アヤメ園(受)<br>8:00アヤメ園P                        | 27<br>(昭和の日)<br>(休園日)<br>○雑木林応援隊(畑)<br>9:30畑             | 28<br>(休園日)<br>○会報発送<br>13:00NC | 29<br>(休園日)<br>○アヤメ園(受)<br>8:00アヤメ園P | 30 | 31   |

森：観察の森、NC：観察の森ネイチャーセンター P：駐車場、畑：観察の森駐車場奥の畑

コジュケイ：観察の森内コジュケイの林、観察舎畑：観察の森内観察舎前の畑、ムジナ：結束町の雑木林（通称ムジナの里）

市：牛久市役所、アヤメ園：三日月橋観光アヤメ園、(受)：受託事業、(休園日)：観察の森休園日

## 編集後記

一年で一番美しい季節を迎えました。草木は新緑に萌え野鳥や小さな虫たちも活動をはじめました。この時期を色で表現すると、「萌木色」と書きます。

春の萌えで木の葉のような色をさし、平安時代から用いられている黄緑の代表的な色名とされています。萌黄色とも書きますが、植物の色をさす一般的な色名である緑に対して、黄みが強いこの文字が当てられたともいいます。クヌギやコナラ、ケヤキの柔らかな新緑はとても暖かそうで、自然界を柔らかく包み込んでくれるようです。雑木林の林床では、人々の心を癒してくれた色とりどりのスミレの花もそろそろ峠を越し、次の野草たちにバトンタッチしています。里山は萌木色から濃い緑へと変化しながら初夏を迎えます。

こんな自然に抱かれて活動が出来ることを本当に幸せに感じています。

さて、これまで編集委員を精力的にこなしてくれた若林さんが今月号で退任し、来月から新委員で会報さとやまを継続させていただきます。今後ともご購入をよろしくお願いたします。

(記 坂 弘毅)

会報さとやま 2008年5月号(発行・NPO法人うしく里山の会)

事務局 300-1212 茨城県牛久市結束町489-1 (牛久自然観察の森内) 電話029-874-6600